

鹿児島県曾於支部の取り組み～『県教研への取り組みから』～

(1) 県教研アトラクションまでの取り組み 米徳先生より

- ① アトラクションの『テーマ』決めをするための学習会からシナリオづくりに至るまで
- ② 親組織としての支部の取り組み

(2) 県教研アトラクションまでの青年部としての取り組み

教育基本法『改正』案が審議され、憲法改正への道筋がつくられようとしている今こそ、平和憲法、教育基本法の理念を生かして、学校現場の要求が実現できるような、教育改革の必要性から、昨年の鹿児島県教研にむけて、曾於支部がアトラクションをすることとなり、今まで以上に団結する必要性を、東郷前部長よりバトンを引き継いだ原田青年部長は、痛感していたが、自分たちだけの力では、なかなか進めることができずにいた、そうした中、青年部を引退して先輩方や支部内の執行部役員の先輩方の力を借りて、配役決めや、劇、歌の練習が行われた。

このような中で、今までなかなか参加しにくかった方々も、時間の都合をつけて、参加することになったり、また、支部全体が活発な雰囲気となり、みんながうちとけていく様子がわかった。そこで、青年部の名簿や連絡網の見直しを始め、練習を重ねるにつれて、青年部がまとまり、つながることができている実感をもてた。

(3) 青年教研へむけての取り組み

アトラクションへ向けた取り組みの中で、心のノート、習熟度別の学習など、教育基本法の改悪に向けた流れに巻き込まれていることに、私たちは改めて気づきました。その中で、一昨年から与党を中心に教育基本法・日本国憲法の改正論（政府与党としての考えとして）が、なされていることに目を向け、もう一度、教育基本法が守ってくれていることについて見つめ直していくことになりました。そして、マスコミを通じて、「改正」（政府与党としての考えとして）することがいかにも良いことのように報道されています。04年2月に設立された自民・民主両党を中心とした超党派の議員連盟「教育基本法改正促進委員会」の設立総会の中で、民主党の西村慎悟議員が「お国のために命を投げ出しても構わない日本人を生み出す。お国のために命をささげた人があって、今ここに祖国があることを子どもたちに教える。これに尽きる」と教育基本法改正の狙いを露骨に述べています。

自衛隊を自衛軍に改め、海外派兵が盛んになれば、自衛軍に入隊を希望する人は減り、再び徴兵制度が復活することにつながりかねません。教え子を再び戦場へ送ることのないように、今、私たちは、教育基本法についてもう一度学び直し、私たちがしなければならないことについて考えていく機会になればという願いをもとに、青年教研へ向けたレポート作りに取り組みました。

(4) 青年部活動報告として

※ 12/27~12/29

沖縄平和の旅に参加 支部青年部より6名

※ 1/27~1/28

鹿屋・肝属,始良・伊佐地区との合同宿泊学習会 垂水市海潟 江洋館
支部青年部より10名

鹿屋・肝属支部青年部の呼びかけでレポート担当支部の曾於,始良・伊佐支部の二支部が,レポートを作成し,本番さながらの研修会及び,レポートの内容についての検討会を行った。また,交流会も盛り上がった。

※ 2/28

青年教研に向けての取り組み 支部青年部より6名 『六回ほど打ち合わせ』

- ① 『レポートの担当割り当て』と『役割分担』決め
- ② 学習会『教育基本法について』……今までの資料を基にして
- ③ 比較『政党別の見解』……レポートの下書きを検討しながら
- ④ 合同宿泊学習会に向けて
- ⑤ レポートの再検討をしながら修正……合同宿泊学習会で各支部から提案されたことを基にしながら
- ⑥ 印刷・綴じ込み

※ 2/24

支部実践講座 還流報告会 全体会の中で感想を発表

※ 3/17

青年部送別会……志布志『やまだや』にて

※ 5/12

青年部歓迎会……大隅『chu~忠~』にて

※ 6/2

志布志駅前リレートーク 『教育基本法改悪反対』集会 街頭デモ行進

※ 7/28~7/29

えびの集会 支部青年部より6名

※ 8/10~8/12

九州ブロック青年部大会(鹿児島大会) 支部青年部より5名